

# 総合人間科学系 全学教育センター

## IoTの時代にアナログ技術を通じて 情報を可視化する

情報技術で作られた環境自体が私たちの生活環境であることも珍しくなくなった今の時代においては、実体の感じられない数値が独り歩きしています。

かつてアナログ技術中心だった時代のように、私たちと環境とをつなぐ界面（インターフェイス）に適切なアナログ表示／操作技術を導入することで私たち人間が環境理解の手助けに情報技術をよりよく活用できるようにすることを目指し、研究を進めています。

### データサイエンス 教育部門



鈴木 治郎 教授

上智大学理工学研究科博士後期課程修了。1990年信州大学医療短期大学部講師に着任、2004年同大医学部保健学科教授を経て、2006年より同大全学教育機構教授。現職に至る。

### 研究から広がる未来

情報技術の成熟が進んだ結果、時代を動かす技術の一つは音声入力というアナログ入力に移りました。

そんな音声入力ばかりでなく、IoTの活用の社会浸透は、今後の私たちの生活環境を情報技術を感じさせないものへと、さらに変えて行くことでしょう。

授業では、そうした社会変化へ主体的に取り組むべき態度を涵養するための見方を提供して行きます。

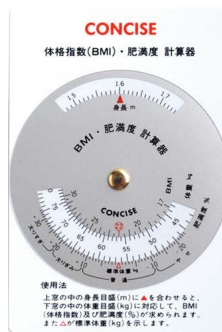
### 卒業後の未来像

どのような分野に進もうとも、内在する情報技術を無視しては進まない時代になりました。情報技術の大きな特徴は、対象に合わせて自在に姿を変えられるものだと、受講生たちが自然に感じられるようになることを期待しています。

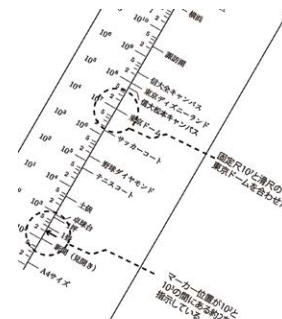


タブレット向けWordのアイコンやメニュー項目は、マイクロソフト社の設計指針に照らしても小さ過ぎるデザインであり、指タッチ操作は困難である。

Wordはタブレットで指（アナログ）操作困難であることを論証



BMI計算尺（コンサイズ社）  
何を計算しているか不明瞭



ゼミ学生設計の東京ドーム比計算尺、  
パテントコンテスト応募作品